

(共同リリース)

2025 年 5 月 22 日

鹿児島県和泊町

株式会社クラダシ

日本エアコミューター株式会社

和泊町(鹿児島県沖永良部島)の農業課題解決に取り組む、連携協定を締結

～7月には社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」を開催予定～

鹿児島県和泊町(所在地:鹿児島県大島郡和泊町、町長:前 登志朗、以下「和泊町」)とソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」を運営する株式会社クラダシ(所在地:東京都品川区、代表取締役社長CEO:河村晃平、以下「クラダシ」)、日本エアコミューター株式会社(所在地:鹿児島県霧島市、代表取締役社長:増村浩二、以下「JAC」)の3者は、就農人口の減少・高齢化などの農業と地域の課題解決と、持続可能な社会の実現を目的に連携協定を締結しました。



連携協定を結んだ(左から)クラダシ代表取締役会長 関藤竜也、和泊町長 前登志朗
日本エアコミューター地域連携部長 上村徹

1. 本連携協定の背景

「人と未来を笑顔でつなぐ、心豊かな和の町、和泊町」を将来像に掲げる和泊町は、若者の流出や少子高齢化に伴い、*2040年には人口が約4,817人まで減少すると予測されています。これは全国の離島の中でも特に深刻な人口減少率を示しており、地域社会の維持や生活関連サービスの確保に大きな影響を及ぼす見込みです。* 第6次和泊町総合振興計画より引用

また、温暖な気候を活かした農林水産業は、先人から受け継いだ高度な技術と新技術の導入により発展を遂げてきましたが、従事者の減少や後継者不足、設備投資の増大といった課題を抱えています。こうした背景を受け、本協定では和泊町の持続可能な農業・地域づくりを目指し、SDGsの推進と食品ロス削減を中核に据えた取り組みを、和泊町・クラダシ・JACの3者が連携して進めることを目的としています。

2. 3者の連携による取り組み内容

Kuradashiのサイト上で地域の特産品の販売を行う他、7月には社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ(以下「クラチャレ」)の実施などを予定しています。和泊町の人手不足やフードロス問題の解決に取り組むと同時に、魅力発信や関係人口の増加にも取り組んでまいります。

今後も、3者の連携によるフードロスや農業課題の解決、和泊町の魅力発信を通して地域の元気づくりをサポートし、和泊町の持続的な発展に貢献してまいります。

■社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

クラチャレとは、フードロス問題や地方創生に興味関心のある学生が日本全国の地域・農家などへインターンとして訪れ、作物の収穫支援や現地での交流を通して一次産業や地域経済の活性化について考える取り組みです。クラチャレを通じて、地域の関係人口の創出・拡大、地域の魅力発信、学生への実体験を通しての学びの場の提供を目指しています。また、参加学生の旅費や滞在費、食費等はクラダシ基金から拠出しており、2025年3月末時点で計52回開催しています。

※クラチャレの実施実績: <https://www.kuradashi.jp/fund>

3. 各者の取り組み

- 1) 和泊町では、遊休農地や耕作放棄地を「和泊農業団地」の整備と農地中間管理機構の活用により集積・集約化しています。ICTを活用したスマート農業で高収益作物の試験栽培を推進しています。併せて、地場産農林水産物の加工品開発や直売所の開設により6次産業化を支援し、ブランド力を強化しています。さらに、農家の働き方改革や多様な担い手の受入れを進めることで、持続可能な地域づくりを図っています。
- 2) クラダシは、「ソーシャルグッドカンパニーでありつづける」をミッションに掲げ、消費可能でありながら通常の流通ルートでの販売が困難な商品を買取り、社会貢献型ショッピングサイト「Kuradashi」で販売することでフードロスをはじめとした様々な社会課題の解決に取り組む事業を展開しています。
また、自らが社会貢献活動を行うために創設した基金、「[クラダシ基金](#)」を活用し、社会貢献型インターンシップ「クラチャレ」を展開するなど、連携協定締結自治体と協働した地方創生事業にも取り組んでいます。
- 3) JACをはじめJALグループは、人・モノの「移動」が社会的な「つながり」を創出し、その「移動・つながり」が地域経済の活性化につながると位置づけ、ESG戦略の一環としてさまざまな社会課題の解決活動を実施しています。

中でもJACは、株主である奄美群島の自治体をはじめ、就航地のみなさまと密にコミュニケーションを取り、交流創出、産業振興、環境保全の3つの柱でより地域に密着した事業運営を行っています。

以上